



## セントジョンズベリー訪日団来校する

本校の姉妹校であるアメリカバーモント州にあるセントジョンズベリーアカデミー（以下 SJ 校）から先生 2 名、生徒 9 名が 4 月 23 日（水）に来校されました。本校と SJ 校の交流が始まってかれこれ 25 年近く経ちます。SJ 校はアメリカの学校では珍しく日本語を選択科目として開講している学校で、毎年この時期に日本語と日本文化への理解を深めるべく日本語を学ぶ何名かの生徒が来日しています。一行は 2 週間弱の滞在で山形、福岡、長崎、京都などを回るかなりの強行日程をこなします。帰国便の関係もあり、行程の最後に東京滞在となるのですが、本校への訪問も半日という慌ただしい中でのことでした。今回来校された 9 名の生徒のうち、1 名はこの 3 月に海城から訪問した際にホストファミリーとしてお世話して下さった生徒です。当日は職員朝会で水谷校長先生からご紹介の後、代表の生徒 1 名が日本語で挨拶をしてくださいました。簡単な校内ツアーの後、2 時間目から高校 1 年の教室で授業体験をしていただきました。SJ 校では各授業は 15 名程度で行われることが多く、日本のように 40 名近い生徒が同じ制服を着て 1 つの教室にいるという風景はどのように映ったのでしょうか。SJ 校は昼休みもそれぞれの授業選択に応じて 5 通りの時間設定があり、食堂が混み合わないよう合理的に工夫されていますが、本校のように短い昼休みに大勢の生徒が食堂に殺到する姿はどう映ったのか興味深い所です。あっという間の半日で、昼休みが終わった後も海城生と SJ 生が名残惜しそうにしていたのですが、一行は午後は都内見学を控えているとのことで海城を後にして次の目的地へと向かわれました。

先日現地から訪日団の集合写真が届きました。オリジナルの写真は 3 号館 1 階の display room に飾っておきます。過去の訪日団の写真も展示されており、毎年訪日団が来校されるとこれまでの写真を見て思い出話に花が咲きます。



当日校内のパートナーとして活躍してくれた生徒諸君、受け入れに際してお世話になった高 1 学年の先生方や生徒諸君、授業担当の先生方にこの場をお借りして御礼を申し上げます。

（グローバル教育部 岡崎 行則）

## 「アドミッション・ポリシー」日米比較

大学は「アドミッションポリシー」というものを設定して、大学が望む学生像なるものを公表しています。そしてこれに従って入試問題なども作成されることとなります。従って大学の「アドミッションポリシー」を知ることは、志望大学を決定する大きな要因にもなるし、受験対策にも役立つのです。

では、少し長くなりますが、東京大学の「アドミッションポリシー」を東大のホームページから転載します。

### 東京大学の使命と教育理念

1877 年に創立された我が国最初の国立大学である東京大学は、国内外の様々な分野で指導的役割を果たしうる「世界的視野をもった市民的エリート」（東京大学憲章）を育成することが、社会から負託された自らの使命であると考えています。このような使命のもとで本学が目指すのは、自国の歴史や文化に深い理解を示すとともに、国際的な広い視野を持ち、高度な専門知識を基盤に、問題を発見し、解決する意欲と能力を備え、市民としての公共的な責任を引き受けながら、強靱な開拓者精神を発揮して、自ら考え、行動できる人材の育成です。

そのため、東京大学に入学する学生は、健全な倫理観と責任感、主体性と行動力を持っていることが期待され、前期課程における教養教育（リベラル・アーツ教育）から可能な限り多くを学び、広範で深い教養とさらに豊かな人間性を培うことが要求されます。この教養教育において、どの専門分野でも必要とされる基礎的な知識と学術的な方法が身につくとともに、自分の進むべき専門分野が何であるのかを見極める力が養われるはずで、本学のカリキュラムは、このように幅広く分厚い教養教育を基盤とし、その基盤と有機的に結びついた各学部・学科での多様な専門教育へと展開されており、そのいずれもが大学院や研究所などで行われている世界最先端の研究へとつながっています。

### 期待する学生像

東京大学は、このような教育理念に共鳴し、強い意欲を持って学ぼうとする志の高い皆さんを、日本のみならず世界の各地から積極的に受け入れたいと考えています。東京大学が求めているのは、本学の教育研究環境を積極的に最大限活用して、自ら主体的に学び、各分野で創造的役割を果たす人間へと成長していこうとする意志を持った学生です。何よりもまず大切なのは、上に述べたような本学の使命や教育理念への共感と、本学における学びに対する旺盛な興味や関心、そして、その学びを通じた人間的成長への強い意欲です。そうした意味で、入学試験の得点だけを意識した、視野の狭い受験勉強のみに意を注ぐ人よりも、学校の授業の内外で、自らの興味・関心を生かして幅広く学び、その過程で見出されるに違いない諸問題を関連づける広い視野、あるいは自らの問題意識を掘り下げて追究するための深い洞察力を真剣に獲得しようとする人を東京大学は歓迎します。

### 入学試験の基本方針

したがって、東京大学の入試問題は、どの問題であれ、高等学校できちんと学び、身につけた力をもってすれば、決してハードルの高いものではありません。期待する学生を選抜するために実施される本学の学部入学試験は、以下の三つの基本方針に支えられています。

- 第一に、試験問題の内容は、高等学校教育段階において達成を目指すものと軌を一にしています。
- 第二に、入学後の教養教育に十分に対応できる資質として、文系・理系にとらわれず幅広く学習し、国際的な広い視野と外国語によるコミュニケーション能力を備えていることを重視します。そのため、文科各級の受験者にも理系の基礎知識や能力を求め、理科各級の受験者にも文系の基礎知識や能力を求めるほか、いずれの科級の受験者についても、外国語の基礎的な能力を要求します。
- 第三に、知識を詰めこむことよりも、持っている知識を関連づけて解を導く能力の高さを重視します。

東京大学は、志望する皆さんが以上のことを念頭に、高等学校までの教育からできるだけ多くのことを、できるだけ深く学ぶよう期待します。

では、アメリカの大学の「アドミッションポリシー」はどのようなものでしょうか。有名大学のものをここにいくつか簡単に紹介しましょう。(資料提供 ベネッセ<sup>®</sup>より)

#### ☆ Harvard University

高校で好成績を収めていることも大切だが、われわれはまた「熱意 (Enthusiasm)」「創造力 (Creativity)」、そして「強い性格 (Strength of Character)」を持つ人材を求めている。

#### ☆ Yale University

「大学の資源を最大限に活用する人」「才能の限界を超えようとする熱意 (Zest)」「公的なものへの傑出したモチベーション、つまり自分より大きいことに関心を持つ志願者」を求めている。

#### ☆ Stanford University

「学業面の卓越さ (Academic Excellence)」「知的バイタリティー (Intellectual Vitality)」「人間的側面 (Personal Context)」、そしてディスカッションを活発にする「好奇心」や「熱意」、いかなる状況でも「物事に関与するエネルギー」、「知見を広げ、新たな知識を創造する機会を求める進取の気性」を見たい。

これらを見ていくと、アメリカが求める学生像は、

- |             |                         |
|-------------|-------------------------|
| 1 学力        | SAT TOEFL               |
| 2 人間力       | エッセイ、面接、願書などに見る活動歴・受賞内容 |
| 3 熱意        | 志望大学の訪問歴 エッセイ、面接        |
| 4 独創力       | 願書などに見る活動歴              |
| 5 貢献度       | エッセイ、願書などに見る活動歴         |
| 6 社会を変える原動力 | 上記のすべて                  |

に集約されるのではないのでしょうか。

さて、トバクマン先生に上記のものを読んでもらい、生徒諸君向けに激励のメッセージをもらいました。ここに紹介します。(注 日本語訳もトバクマン先生)

You are the pride of Kaijo Junior & Senior High School. You are the light of your generation, as well. Do one deed, and you shall become the bridge between Japan and the world.

Master English. Your conversation ability will help you to make friends from around the world; your listening practice will help you to understand speeches and news reports; and if you have reading and writing skills, outstanding universities will open their doors. They search each year for future leaders of the global community. Their challenging curricula are the same as chocolate: bitter, but sweet. You will probably get hooked to the taste and discover, There is more nutrition inside than I thought!

Vegetables come before dessert. Please come in for a consultation.

(君たちは海城中学高等学校の誇りです。世代の光でもあり、一つのアクションを起こすことで、日本と世

界との懸け橋になれます。

そう、英語をマスターすることです。会話力で、各国の友達が作れる。聞き取り練習で、演説やニュース放送が分かるようになる。そして、読解力・文章力があれば、名門大学は門戸を開いてくれる。グローバル・コミュニティの将来のリーダーを毎年、探しているからです。挑戦的なカリキュラムはチョコレート同様に、苦味があるかもしれませんが、甘味もあります。君たちはきっと、その美味しさにハマリ、思ったよりも栄養が入っていると、発見することでしょう。

デザートを頂く前には、野菜も出ます。一度、相談に来てください。)

#### 同窓会「海原会」の海外支部

同窓会誌「海原」の第39号(2014/05/1 発行)で、海外の「海原会」支部が幾つか紹介されました。そこで、「海原会」の幹事をお願いして、同窓会支部についてももう少し詳しく紹介してもらいました。海外旅行の時の手助けになるかも知れません。

アメリカ(NY支部)  
担当帰国につき活動停止中  
※それとは別に探しています

アメリカ(LA支部)  
宮田稔丈(昭和45卒 旧名 俊男) 会社経営  
tmiyata@ca.rr.com  
tmiyata3131@hotmail.com

イギリス(ロンドン在住)  
※ロンドンに海外支部はなく、準備中です。  
石崎一郎(昭和57卒) 丸善  
usal6ishizaki@aol.com

アジア  
ベトナム支部(ハノイ)  
梶宏光(昭和37卒) プロゴルファー  
kaji@herogolf.asia

カンボジア支部(プノンペン)  
小市琢磨(平成05卒) 会社経営  
takuma@locomo.com

タイ(バンコク支部)  
宮本裕一郎(平成07卒) バンコク銀行  
yuichiro.miy@bbl.co.th

#### 求むホームステイ

突然ですが、ホームステイを引き受けて下さるご家庭を探しております。以前にご紹介したことのある「ISA」という留学などを扱っている会社に、インターンシップとして来日するハーバード大学の学生が短期間のホームステイ先を探しています。期間は7月8日から20日の間の数日間です。興味関心があられる方は、5月22日までに、グローバル教育部(春田)までご連絡いただくと助かります。また、ご不明な点がありましたら、お尋ねください。

宜しく願い致します。